

[年賀状の準備][Windows 10/11 大型更新の概要]

2022年11月26日 河出 修

[年賀状の準備]

1. 「筆まめ」について

年賀状や暑中見舞い等は、パソコンで作成・印刷するのが当たり前の時代になってきました。今回は「筆まめ」の「Ver.33」を取り上げて年賀状作成の基本的なことを説明します。「筆まめVer.33」は「筆王」「筆ぐるめ」から乗り換えが可能。また、5台までインストールできる。

2. 「筆まめ」の起動

- 「筆まめVer. 33」のショートカットをダブル・クリックする。
- 「オープニングメニュー」画面が表示される。→「宛名面を作る」をクリックする。



3. 差出人の登録

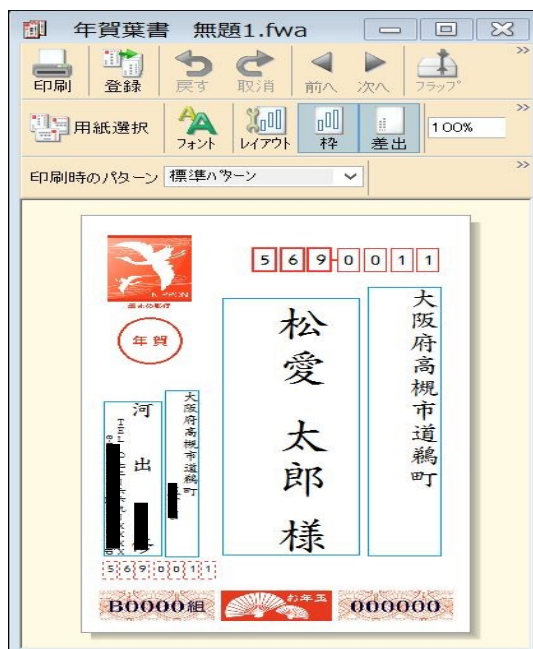
- 「宛名面を作る」タブ → 「差出人を作成・編集する」ボタンを押す。
- 差出人の住所、氏名、電話番号、E-mail等を登録する。
- 差出人は5種類登録でき、その中から選択できる。(個人、夫婦連名等)

4. 宛名の登録

- 「宛名面を作る」タブ → 「新しい住所録を作る」か「保存した住所録を開く」ボタンを押す。
- 「氏名(N)」欄に氏名を入力し、「敬称(K)」を選ぶ。(フリガナは自動付与される。)
- 「〒(Z)」欄に郵便番号を入力すれば、「住所1(1)」に自動変換される。「住所1(1)」の後部、または「住所2(2)」に続きの住所を入力する。

●宛名入力画面

●宛名印刷イメージ



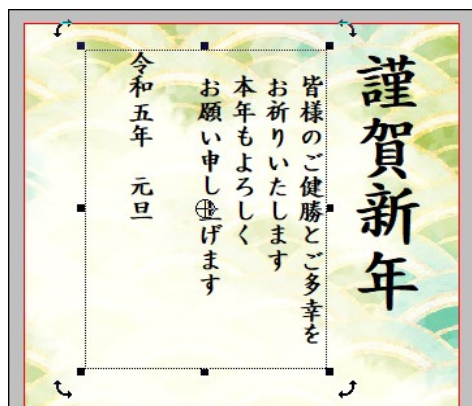
5. 「デザイン面を作る」を開く。

- 「デザイン面を作る」をクリックする。

6. 背景の設定

- 「デザイン面を作る」タブ → 「収録サンプルから開く」ボタンを押す
 - 「筆まめ33カテゴリ」タブを押す → 「01 年賀状」を開く → 「3 背景」を開く
 - 「03年賀背景(縦)」を開くと「背景画」が表示される。 → 「好みの背景」を選択する。

7. 文面ファイルへの文字入力



- 「文字・文章の入力」欄の中の「文章」を選び、入力範囲を設定する。
- フォントや文字サイズ等を設定する。
- 設定した入力範囲に文章を入力する。
- 入力範囲が「イラスト・写真」と重なる場合は「重なり順」→「最前面へ」に設定する。
- 「定型文章」を利用することもできる。
 - 文章が苦手な人も安心。「定型文章」を多数収録。
 - 年賀状に添える一言の文例「定型一言」を250点収録。

8. 文面データへのイラスト、写真入力



- 「画像の貼り付け」欄の中の「イラスト・素材ボックス」を選ぶ。
- 入力するイラストまたは写真を選択し、ダブルクリックで取り込む。(左上に取り込まれる)
- イラスト、写真の位置を調整すれば完了です。
- 「イラスト・写真」文章と重なる場合は「重なり順」→「最背面へ」に設定する。
- デザインツール
 - 「お絵描きペン」「ハンコメーカー」「スタンプ」
 - たくさんの写真をセンスよく演出！「フォトコラージュ」
 - 写真がかんたんに切り抜ける！「フォトカッター」
 - 「クローンブラシ」
 - ・複数写真の「いいところ」を取って別の写真に貼り付け
 - 「QRコードの作成、貼り付け」
- 文字・画像の編集
 - 写真をおしゃれに加工できる！「筆まめフィルタ」
 - 写真をキレイに補正・加工！「筆まめレタッチ」

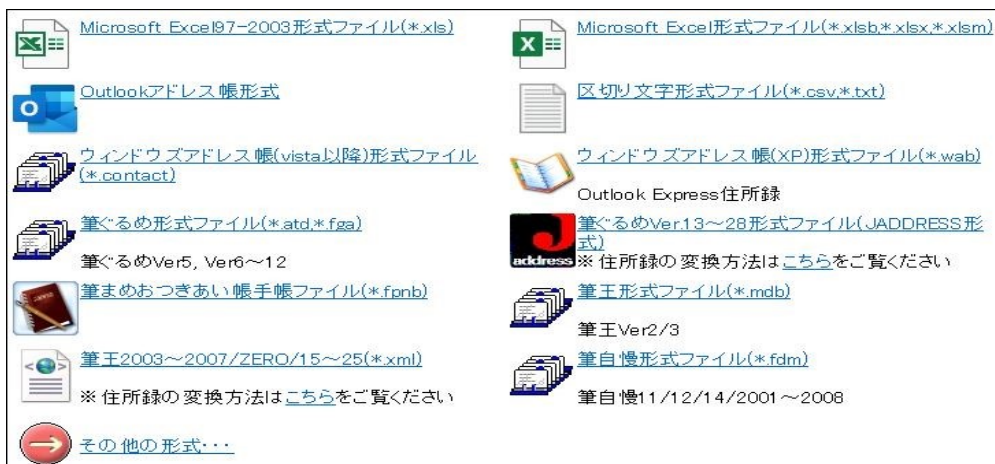
- 内蔵イラストや写真で満足できない場合は、インターネットのダウンロードサイトを利用可能。
(ただし、ダウンロードサイトには「有料」の場合があるので注意が必要)
- 無料のダウンロードサイトの例 (Canon Creative Park):ダウンロードするにはIDが必要。
<https://cp.c-ij.com/jp/categories/CAT-ST01-0174/top.html>

9. 文面ファイルの保存

- 「保存」ボタンを押すと、上書き保存される。
- 「ファイル」 → 「名前を付けて保存」 → 「保存場所」と「ファイル名」を指定する。

10. 他形式の住所録ファイルの変換

- 「宛名面を作る」タブ → 「他形式の住所録を開く」ボタンを押す。
- 「筆王」、「筆ぐるめ」の変換や「他の形式」の変換が可能。
 - ・「他の形式」→「Excel」、「Outlook」、「筆自慢」、「宛名職人」、「ウインドウズアドレス帳」、「筆休め」、「楽々はがき」、「はがきスタジオ」、「筆まめの古い形式」等が変換できる。



- ・上図の「その他の形式」ボタンを押すと、次画面が表示される。(10種類の変換機能がある)

[Windows 10/11 大型更新・22H2の概要]

1. 最新のWindows 10の正式名称は「Windows 10 Ver.22H2」です。

- 「Windows 10 Ver.22H2」は 2022 年 10月19日に配信が開始された。
- 「今回のアップデートでは新機能のアナウンスはありませんが、品質、生産性、セキュリティなど既存の機能領域におけるWindows 10の品質向上に重点を置いたリリースであると説明されている。
- 現在多くの新機能開発はWindows 11に焦点が絞られているため、Windows 10ではマイナーな機能更新にとどまりますが、2025年10月14日まではWindows 10はサポートされ続ける予定です。
- 22H2 UpdateはWindows 10バージョン「20H2」以降を実行しているデバイスのユーザー向けに提供されます。準備ができ次第「Windows Update」から更新プログラムの確認を選び、アップデートすることができます。

2. 最新のWindows 11の正式名称は「Windows 11 Ver.22H2」です。

- 「Windows 11 Ver.22H2」は 2022 年 9月20日に配信が開始された。
- 「22H2 Update」は、Windows 11初の機能更新プログラム。
- 「スタート」画面や「エクスプローラー」、タスクバー、「設定」アプリのアップデート、システム全体で機能する「ライブキャプション」をはじめとするアクセシビリティ機能、「スマート アプリ制御」(Smart App Control)などの新しいセキュリティ機能など、多くの改善が含まれている。
- サービス期間はHome/Proエディションが24カ月、Enterprise/Educationエディションが36カ月。
- 「Windows 11 Ver. 22H2」は、「設定」画面の[Windows Update]セクションをチェックすると「Windows 11 バージョン 22H2」が利用できることを示す案内が表示される。ユーザーが「ダウンロードしてインストール」ボタンを押せば、インストールされる。

